

校長室の窓からNo. 6 (H28. 8. 3)

シリーズ「成長の実感について⑥」

～「念ずれば花ひらく」(作者：坂村真民氏)及び
「ピグマリオン効果」、「ローゼンソール効果」、
「精神一到何事かならざらん」について～



「念ずれば花ひらく」作者 坂村真民

念ずれば花ひらく
苦しいとき
母がいつも口にしていた
このことばを
わたしもいつのころからか
となえるようになった
そうしてそのたび
わたしの花がふしぎと
ひとつひとつ
ひらいていった



学校農園「じゃがまる農園」の周囲では小麦の収穫が始まろうとしています。 8/3

坂村真民氏の詩は、いつも心に思い描いた夢や目標、望みは叶えられるという含蓄のある内容です。なぜなら、現在の子どもたち、あるいは私たち大人にあっても、自分の人生を築いていくときに、いつもこのような考えをもつことは大変よいことですし、勇気づけられる内容と思うからです。似た意味では、「ピグマリオン効果」「ローゼンソール(ローゼンタール)効果」「予言の自己成就」がこれに相当しますし、「精神一到何事かならざらん」も似た内容を有していると考えます。

ピグマリオン効果は、ギリシア神話に出てくるキプロス国のピグマリオンという王様の名前が由来になっています。ピグマリオン王は、彫刻に才能があり、いつの日か自分が思い描いていた理想の女性を彫刻していて、完成したその彫像に恋をしてしまいました。そのため、「彼女が生きた人間だったら・・・」と毎日思い続けるようになりました。愛の女神アフロディーテは、ピグマリオン王の様子を哀れに思い、神通力で彫像に命を与えました。そこで、「心から願うこと(期待すること)でよい結果を生み出す」として、王の名前に因んで、ピグマリオン効果と名付けられました。



「大きく育ってね、きゅうりさん」教材園 8/3

ローゼンソール（ローゼンタールと発音する国もありますのでそのようように呼ぶ場合もあります）効果とは、アメリカの心理学者ローゼンソール氏が、とある小学校全校児童の知能検査に立ち合い、無作為に選んだ子どもについて、「この子どもたちが、将来知能が伸びますよ。」と担任の先生たちに伝えたことがこの始まりです。一年後、再び全員に知能テストをしたところ、知能が伸びると伝えられた子どもたちは、他の子どもたちと比べて、知能指数が著しく伸びたというのです。そこで、その学校の校長先生や担任の先生たちが、「どうして、知能指数が伸びるかがわかったのですか。」など質問したところ、ローゼンソール氏は、「無作為に選んだ」「知能が伸びると言われ、知らず知らずのうちに先生方の**期待感やほめ方などに影響を与え、知能を伸ばす結果につながった**のではないか」と答えたそうです。これらのことが、他の多くの研究者にも影響を与え、数多くの追試が施されてほぼ同様な結果が得られたため、その効果が妥当であることの法則性が導き出されました。そして、その効果は、研究者ローゼンソール氏の名前に因んで、ローゼンソール効果と言われるようになりました。また、ローゼンソール効果は広く世の中に知れ渡るようになり、現在では、一般に「教師期待効果」と呼ばれています。

予言の自己成就とは、「紙に書けば願いは叶う」「人に話せばその夢は叶う」というように**有言化（予言化）することによって、自己の願いが叶う（成就する）**という内容です。理由は、次の通りです。いつもそうしていると、自身でその夢を見たり、刷り込みを強化（思い込みの強化でもOK）し、やがて、自分で「できるはずだ。」「できないのがおかしい。」と信じるようになり、具体的な反省や努力も数倍強化され見事に達成または、願いや夢にかなり近づくというものです。例えば、「合格祈願」や「必勝祈願」と紙に書いて壁に掲示することがそれに該当します。また、野球の鈴木一朗選手やサッカーの本田圭佑選手も小学校6年生の作文で現在の状況を具体的に書いていますし、有言実行をモットーにしているようです。二人のこれまでのことを考えますと、予言の自己成就の代表的な例と考えます。

（鈴木一朗選手が書いた小学校6年生時の作文の一部）

「僕の夢は、一流のプロ野球選手になることです。・・・（中略）3年生の時から今までは、365日中、360日は激しい練習をやっています。だから、1週間中で友達と遊べる時間は、5～6時間です。そんなに練習をやっているのだから必ずプロ野球選手になれると思います。そして、中学、高校と活躍して、高校を卒業してからプロに入団するつもりです。そして、その球団は、中日ドラゴンズか西部ライオンズです。ドラフト入団で、契約金は1億円以上が目標です。（以下省略）・・・。」

（本田圭佑選手が書いた小学校6年生時の作文の一部）

「ぼくは大人になったら、世界一のサッカー選手になりたいと言うよりなる。世界一になるには世界一練習しないとダメだ。だから今ガンバっている。今はヘタだけどガンバって必ず世界一になる。そして、世界一になったら大金持ちになって親孝行をする。Wカップで有名になって、ぼくは、外国から呼ばれてヨーロッパのセリエAに入団します。（以下省略）・・・。」

最後に。「精神一到何事かならざらん」は、中国宋代の儒学者であった朱子が唱えた教えです。**何事もできると信じて、精神（心）を集中して行えば、必ずできるようになる**という内容ですので、「念ずれば花ひらく」と同じ内容と考えられます。何事も無理だとか不可能だとかで諦めた状態や半信半疑な状態で努力するより、達成を前提に自分の力を信じて、「達成の期日を決める」「具体的な行動（努力）目標を決める」「実行につなげる」ことで、いつも心に思い描いた夢や目標。望みは叶えられるというものです。そのため、親や教師、周囲の方々から適度な期待や暗示は効果が上がるはずで、さらには、自分自身に暗示をかける自己暗示もできるようになると、かなりの高みを目指すことができると考えます。